

理 科

科目名	単位数	学 年	学 科
科学と人間生活	2単位	1年	農・普科

教科書	高等学校 科学と人間生活 (第一学習社)	副教材	ネオパルノート科学と人間生活 (第一学習社)
-----	-------------------------	-----	---------------------------

科目の目標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。
-------	---

☆ 年間指導計画と学習のポイント ☆

	学 習 項 目	単元の評価の観点	
		①知識・技能	②思考・判断・表現
1 学期	第Ⅰ編 科学技術の発展 第Ⅱ編 人間生活の中の科学 第1章 物質の科学	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解している。 光や熱の科学、物質の科学、生命の科学、宇宙や地球の科学と人間生活との関わりについて、認識を深めるとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察している。 光や熱の科学、物質の科学、生命の科学、宇宙や地球の科学と人間生活との関わりについて、問題を見出し見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現しようとしている。
2 学期	第2章 生命の科学 第3章 熱や光の科学		
3 学期	第4章 地球や宇宙の科学 第Ⅲ編 これからの科学と人間生活		
1 中学校理科の内容とのつながりを確認しながら、日常生活とも関連づけ、身近にある科学に対して疑問を抱きましょう。 2 観察・実験、課題研究などを通して、その疑問を解決する方法を見つけましょう。 3 学習内容をノート（レポート）にまとめ、発表しましょう。			

番号	評価の観点	評価規準
①	知識・技能	自然や日常生活等と科学の関わりを理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などの技能が身に付いている。
②	思考・判断・表現	観察・実験などの結果から、分析し、導き出した考えを表現している。
③	主体的に学習に取り組む態度	科学的な根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断しようとしている。
定期考査	1学期中間・期末 2学期中間・期末 学年末（計5回）	
評価方法	以下を総合的に評価する。 ①知識・技能（定期考査、ファイル・問題集提出） ②思考・判断・表現（定期考査、レポート・課題提出、意見発表） ③主体的に学習に取り組む態度（授業・実験態度、グループワーク）	

